

風土記の丘の花だより²³⁸

今、そしてこれから見られる植物(2024年6月2日)

新緑が雨に洗われて、更に美しさと輝きを増したように感じます。早いものでもう6月になりました。これから雨の季節になります。私たちにとっては歩きにくく、ちょっとうっとうしい季節になりますが、山の草木は喜んでいることでしょう。



黄色にオレンジ色のつぶつぶが付いたイチゴがなっています。コジキイチゴの実です。「こじき」という言葉も使わなくなりましたが、年配の方ならイメージできることでしょう。まずくはなく、もちろん毒もありませんが、少なくともおいしいとは言いがたい味です。(私個人の感想です) 別名を袋苺(ふくろいちご)と言うそうで、実の中身が空洞になっていて、まるで袋のようなので、そんな呼び名をもらったのでしょうか。茎はトゲと細い毛でびっしり覆われています。



こちらはおいしいクサイチゴです。クサは臭いではなく、草のことです。分類上、草ではなく木ですが、生えているようすはまるで草です。このイチゴは生でもおいしいですが、ジャムにするとなかなか絶品です。(ただし、これも私個人の感想です) 食べられるイチゴで言うと、冬に実るその名もフユイチゴもおいしいですよ。でも、食べるときは、植物に詳しい人にキチンと教えてもらってからにしてくださいね。何でもかんでも食べることはお勧めしません。



夏の野を代表する花の一つオカトラノオが咲き始めました。トラノオというのは、もちろん「虎の尾」のことで、葉や花序(小さな花の集まり)が細長いものによく用いられる名前です。たとえばトラノオシダやカクトラノオなどがそうです。オカトラノオの花序の独特の曲がり具合というか、うねり具合はなんとも芸術的です。一度見たら忘れられない造形美です。サクラソウ科の植物で、万葉植物園でよく見られます。でもこれは万葉集に歌われたいわゆる万葉植物ではありません。



キササゲの花です。まずおことわりしますが、この写真は去年のものです。これを書いている5月29日現在、まだ余り花が咲いていないので、この写真を使いました。竪穴住居の東側、道をはさんで山側に生えている背の高い木です。ですから見上げていただかないと見えません。キササゲはノウゼンカズラ科の木ですが、アズキに似た豆のササゲのような細長い実ができるので、木ささげ という名前が付けられています。

松下